

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第8回）

兼 理事－若手意見交換会

日時：令和2年12月21日 13時～15時05分

出席者：

（理事・監事・教員）甲斐、飯本、橋本周、佐々木、迫田、菅井、高橋

（若手研）廣内、廣田、辻、片岡、嶋田、中畷、恵谷

（学友会）仲宗根

概要：

■学会に求めるものは？

- ・人材交流の場
- ・専門研究会を中心とした分野への貢献
- ・詳細な情報収集には、コミュニティ（若手研とか）メンバーにメリットあり
- ・アウトリーチ活動（暮らしの放射線 Q&A 等）。一方、学会の枠組みで活動すると SNS での迅速な発信などに制約あり
- ・専門性の高い議論をするには、現時点では他学会に目がいてしまいがち → 他の専門性の高い学会を放射線防護というキーワードで取りまとめるようなハブ的な立ち位置にはなれないか。

■保物学会は学際的な集まり

- ・以前、部会制も考えたこともある。専門性は高まるが、保物の特徴である学際性が失われるおそれがあった。例えば、「研究会」のような軽いものなど。若手研でやる、というよりも、専門性の近い個人/同志を募って手を挙げてほしい。

→気軽に手を挙げる、という雰囲気が今の学会には感じられない。学会や若手研の名に傷がつくことを恐れているところもある。

- ・若手は自由かつ大胆にやってほしい。学会の名に傷がつくことを恐れなくても良い

■所属機関の学会活動への理解

- ・学会活動を奨励していない雰囲気はあるか
→たとえば JAEA 研究部門では学会活動は基本で、ある程度の評価はされているが、その度合いや何に重点をおくかが部署ごとに違う模様
- ・規制庁に放射線防護分野の若手が多くいるが、学会活動への積極的な参加が奨励されてい

るかどうか

■アンブレラ

- ・規制庁から4学会への具体的な要請はない。
- ・4学会でのシンポジウムの開催などはあるか
→現在、実効線量に関するウェビナーの計画はあるが、共通のテーマが出しにくい状況

■安全管理学会との関係

- ・必ずしも両学会で求める方向性（実務面、防護の枠組み）が一致しないように見える
- ・今後も合同大会を検討しつつ、連携のありかたについて継続的な議論が必要

■授賞

- ・現在、奨励賞（研究ベース）はあるが、若手をエンカレッジするための授賞（学会活動による貢献など）も考えている
- ・職場で評価されるものであると良い。技術系（現場系）の方への配慮もあると良い
- ・JAEAの場合、研究系は「学会活動（研究的案件に限らず）はやるべきもの」の位置づけ。技術系では少し違う見方があるかもしれない
→技術系と研究系では評価の「ものさし」は異なるだろうが、技術系でも学会活動は評価対象となるはず
- ・大学などでは英文誌への投稿を強く奨励している。和文誌（保物誌）だと要求されている条件を満たさない場合がある

■JRPR誌

- ・元々荻野会員が若手研主査の時に甲斐会長と準備してきた経緯のもの
- ・現在若手は投稿料フリーであることを初めて認知。JRPR誌の存在を知らない会員も多いのではないか → 一層の宣伝が必要
- ・JRPRに要旨を提出する際にハングル語にする規定があるので英語に統一してほしい
- ・論文賞を新設してはどうか → JRPR論文賞を保物学会に新設する方針を検討中

■保健物理誌

- ・JRPR誌は英文論文、保物誌は和文論文、のように今後収束することになるのだろう
- ・今後の保物誌では、技術レポートやモニタリングデータに一層フォーカスしてはどうか。

投稿への敷居を下げるなども視野に

→若手技術者の表彰対象にもできる

→雑誌の強みはアーカイブ性。貴重なデータを残すには自治体等の報告書では弱い面がある。投稿区分について、技術データも出しやすくなるような整理も必要。

→論文執筆の支援制度もあるので活用してほしい。この制度の認知を広めることも必要

■IRPA2028

・開催地希望としてニュージーランドを第一志望に

■その他

・学会として、若手研メンバーにノルマ的な何かを与えることはない

→個人的な関心／やりたいこと／要望／アイデアなどあれば声をあげてほしい

・若手支援（論文）の仕組みがあれば教えてほしい。今後、ツイッターなどでも宣伝できる

・新しい若手が学会に入る「メリット」を、入ってきた若手自身が「自ら作らねばならない」という状況では新しい人は入ってこないだろう

以上